

第24回二ツ井町交通安全町民大会

ルールと思ひやり

笑顔でゆきかう 交差点

交通事故防止の誓いを新たに

『ルールと思ひやり 笑顔でゆきかう 交差点』をテーマに今年度の交通安全運動が実施されていますが、交通安全運動の一層の理解と協力を図っていくため、二十四回目の二ツ井町交通安全町民大会が十一月二十四日、役場大会議室で行われました。

当日は、交通安全関係者、各種団体長、小中学生など百人が参加。交通事故により尊い命を犠牲にした方々への黙祷をささげました。大会の初めに工藤収入役が「さまざまな交通安全運動を進めています。事故の撲滅にはいたっていません。これからもさらに取り組みを強化し、一人ひとりが交通安全を意識し事故のない町にしましょう」とあいさつ。



続いて、交通安全功労者、交通安全作文・標語コンクール入賞者、無事故無違反競争優良支部の表彰が行われました。また、今回優秀賞に選ばれた四人の児童、生徒の作文が朗読され、来場者は、子どもの目で見えた交通のあり方を感じていました。

最後に、山谷妙子二ツ井町交通安全母の会会長により、子どもと高齢者、若者の交通事故防止、飲酒運転追放などを盛り込んだ大会宣言が読み上げられ、事故防止の決意を新たにしました。

交通安全功労 作文コンクール 標語コンクール 無事故無違反競争 受賞された方々 (敬称略)

交通安全功労者

【個人】金子良一・小西清一・畠山英範

【団体】二ツ井第六区町内会

交通安全作文

【優秀賞】(六)七ページに掲載)

『新しいしんこうきがついたよ』

高橋 穂(天神小二年)

『じゅつたいで思ったこと』

平川 悠(仁鮎小四年)

『便利さと命』 藤田智大(田代小六年)

『運転手と歩行者のゆずり合い』

松島 匠(二ツ井中小三年)

【入選】

／高橋亜祐奈(田代小一年)／長木綺菜(富根小二年)

／永井遥(二ツ井小三年)／工藤真野(富根小三年)

／藤内真央(天神小五年)／七尾達哉(田代小六年)

／市川志穂子(二ツ井中一年)／工藤千草(二ツ井中二年)

／浅利浩太(二ツ井中三年)／松岡綾子(二ツ井中三年)

【佳作】

／金野つばさ(二ツ井小一年)／成田早希(田代小二年)

／奥村宏富(田代小三年)／高橋大輔(田代小四年)

／藤内龍彦(天神小六年)

／畠山愛未(仁鮎小六年)

／池端かおり(二ツ井中三年)

／藤ひかる(二ツ井中三年)

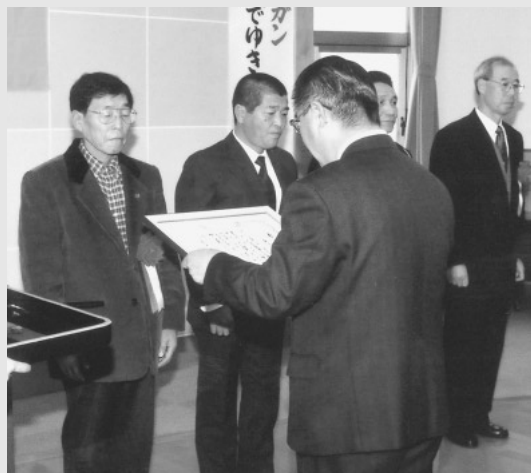
／吉岡朋恵(二ツ井中三年)

交通安全標語

【最優秀賞】

『あぶないぞ しらない道より なれた道』

山谷裕太(富根小五年)



これまでの功労を讃え表彰

【優秀賞】

『シートベルト』

小さな気遣い 大きな安全

川口大貴(二ツ井小六年)

『あかあおき』

みつつのいろを まもろうね

菊地悠那(天神小一年)

『くるまのかけ』

でたらあぶない こわいかけ

七尾和紗(仁鮎小一年)

『事故多発 初心にかえって 安全運転』

山谷 翔(富根小六年)

【佳作】

／原田香奈(二ツ井小一年)

／石岡泰行(二ツ井小六年)

／対馬恵子(二ツ井小六年)

交通安全無事故無違反競争優良支部

【第一位】二ツ井藤里地区交通安全協会

仁鮎支部

【第二位】 第一支部

【第三位】 天神支部

交通安全作文コンクール優秀作品

新しいしんこうきがついたよ



高橋 穂さん (天神小2年)

このまえ、高たけけんせつこのころに新しいしんこうきがつきました。そこは、これまでしんこうがついていなかったもので、とてもあぶなかつたところです。

わたしは、学校の行き帰りに、まい日かならずそのみちをとおります。朝は、一年生から六年生までいつしよのグループで、しゅうだんとうこうをしています。

あれは、たしか、五月ごろのことです。朝どろろをわたろうとして、みんなでまわっていました。わたしたちのまえを、トラックやものすごい音をたてて走る車が、ど

んとおります。なかなかわたれそうにありませんでした。そのとき、白い車がとまってくれました。わたしは、いそいでとちゅうまでわたりました。でも、とつぜん、はんたいがわからもうスピードで車はしって来たのです。はんちゅうさんがあわてて、わた

したちをとめてくれたので、だれもけがをしなかつたのですが、びっくりして、ランドセルのひもをぐつとつかんでしまいました。

二学期のさいしょの日から、わたしたちのはんは、新しいしんこうきをつかっています。いつも、はんちゅうが、ボタンをおしてくれ

れます。でも、しんこうがついたからって、あんしんはできません。ちゃんと、ルールをまもらなければなりません。赤になつたら車がこなくても、しっかりとまる

こと。青でも、右、左はきちんと見ること。いたすらでボタンをおしたりしないこと。

新しくついたらしんこうき。やくそくをしつかりとまもって、これからもしんこうきになつたら、

じゅうたいで思ったこと



平川 悠さん (仁鮎小4年)

去年の秋、ぼくはあこがたい

よう。使つ人が多ければ、ルールを守らない人も多くなり、事故もそれにつれて多くなつてしまふのは、いやなこと

です。ぼくが住んでいる田代には、けいたい電話のアンテナが立っていないので電波が届きません。だから、けいたい電話で話をしながら車

を運転している人はいません。不便だけれど、このままアンテナが立たなくてもいいと思つことも

手と歩行者のゆずり合い



松島 匠さん (二ツ井中3年)

八月の半ばのことだった。僕の

住んでいる切石地区で、交通事故があつた。お盆のお墓まいりに行く途中の事故だった。僕達が通つた時には、もう警察の人は帰る所

だった原因は、その子の兄が渡つたので渡ろうとした急なとび出しだったそつだ。僕もよく母の車に乗る事がある。車に乗っていると、車の直前で渡

るので、学校が終わつてからお母さんの車に乗って、のしるの病院に行きました。しんさつが終わつて帰り道で大変なことがありました。つるがたのあたりで、車がずつとつながつて止まっていた。ぼくたちもそのじゅうたいの後ろにならんたら、すぐにぼくたちの車の後ろにも車がたくさん並びました。ぼくは、どうしてこんなにしゅうたいになっているのか不思議でしたが、がまんして待っていました。でも、ずっと止まつたままだし、七時になつて、夕ごはんも食べていないから、おなかがついて、イライラしました。ぼくの家では、けいたい電話がないので、母さんも、「みんな心配しているかもしれない。こまつたね。」と言っていました。

キしながら帰りました。ぼくたちが家に着いたら八時を過ぎていました。いつもだったら七時に着いているはずでした。ぼくとお母さんが、戸を開けたら、兄さんが、大きな声で「母さんと悠が帰ってきた」とさげびました。テレビに事故のニュースのことが入つて、ぼくたちがおそいので、事故の車がぼくたちじゃなくかと、兄さんが心配したそつです。あちこち電話をかけてもいないので、心配して泣いてしまつたそつです。ぼくは、家族のみんなに、事故で見た車の様子や事故のせいで、すこいじゅうたいになつて動けなかつたことを教えました。車がひどくつぶれていたことを言つた時は、みんなびつくりして「こわいなあ」と言いました。そして、兄さんが「母さんと悠が事故にあつたかもしれないと思つたら、悲しくてなみだがとまらなかつた」と言つたとき、いつもぼくにめいれいする兄さんだけれど、こんなに心配してくれたと分かつてちよつとうれしかったです。

便利さと命



藤田 智大さん (田代小6年)

近ごろ町に出かけて行くと、車に乗りながらけいたい電話で話している人が多いと思ひました。

二コースでは、運転中にけいたいで電話で話していると、ばつ金になると言っていました。なぜかという、運転中に電話で話していると、電話の方に気をとられてしまつて、運転に集中できなくなり、事故を起こす可能性が大きくなるからだそつです。

たしかに話している時に、歩行者がとび出してきたり、信号が赤にかわつたりすると、判断が間に合わないだろつな、と思ひます。

また、事故が起きるのは、話をしている時だけとはかぎりませんが、かかつてきた電話に出る前もかなりきけんたそつです。電話がかかつてきた時に、どこかに車を止めてから電話に出ればいいのですが、わざわざ止まるのをめんどくさがつて運転しながら出よつとして、よそ見をしてしまつ場合がありま

す。しかも、けいたい電話をバッグの中に入れておける時は、出そつ

としてさらに危険がふえてしまいます。

母もけいたい電話を使つていますが、電話がかかつてきた時は、気になつて運転に集中できなかつたと言つたので、気をつけてほしいと思ひます。

今は、けいたい電話を手にもつて話さなくてもいいよつに、イヤホンとマイクがくつついたものをつけていつでも話せるよつにしたものや、口を近づけなくても話せるハンドフリーのものがあります。けれども、これらのものは、かかつてきた電話に出る時の手間は、あぶく役割はしているもの、話をしていることにかわりはないので、やはり、運転に集中できないのではないでしよつか。

けいたい電話で話しながら運転をして事故を起こすと、こつかいするのは自分なのだから、ルールをきちんと守つて使つてほしいです。

この前、買い物に行つた時、道路のわきに車を止めてけいたい電話で話をしてる人を見かけました。マナーのいい人だと思ひました。

スピードは、よそ見運転、いねむり運転、信号無視など交通事故の原因は、たくさんあります。これにけいたい電話が新しく加わり、その事故件数も増えました。便利なので使つ人が多からでし